

基本計画25 公共交通の充実

現状と課題

本市の公共交通である鉄道や路線バスなどは、通学や通勤など市民生活に欠かすことのできない交通手段ですが、道路インフラの整備や少子化による通学者の減少などから、利用者が減少しており、公共交通の確保が大きな課題となっています。また、高齢化が進む中、公共交通のあり方について議論を深めていく必要があります。

鉄道交通においては、北海道新幹線開業により JR 北海道から鉄路を引き継いだ道南いさりび鉄道が運行している五稜郭一木古内間では、経営環境が厳しい中、沿線市民の生活路線として確保に努める必要があります。

バス交通においては、市内を運行している22路線の確保に努めることが必要であり、北海道新幹線の開業などの環境変化や交通需要に対応したバス路線の確保が必要となっています。

■ 路線バス輸送人員・乗車密度の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
輸送人員(人/日)	2,548	2,601	2,496	2,486	2,306
乗車密度(人)	5.9	6.0	6.3	6.1	6.6

※輸送人員は、起点から北斗市内を經由し終点までの乗車総人員

※乗車密度:市内を運行する路線バスの1台1日1キロあたりの平均乗車人数

■ 道南いさりび鉄道利用人数の推計

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
利用人数(人/日)	2,046	2,012	1,978	1,944	1,910

(注1)五稜郭から木古内区間の1日当りの平均利用人数

成果指標

No.	指標名及び説明	現状値	将来目標値
1	道南いさりび鉄道利用人数 (1日平均乗車人数)	約2,000人	➡
2	市内運行の路線バス乗車密度 (1台1日1キロあたり平均乗車人数)	6.6人	➡
3	交通機関の利便性	43.5%	➡

[成果指標の現状値・将来目標値について]

- 1 現状値は、平成28年度平均利用人数。
- 2 現状値は、市内を運行する函館バスの平成28年度1台あたりの1日1kmあたりの平均乗車人数。
- 3 現状値は、市民意識調査結果に基づく満足度。

主要施策**1 公共交通の確保と充実**

- ① 公共交通は、通学や通勤など市民生活に欠かすことのできない移動手段として、交通事業者と連携を図り、確保に努めます。
- ② 高齢社会や人口減少などの環境変化や交通需要に応じ、市民や交通事業者との意見交換の場で議論を深め、公共交通のあり方について検討します。
- ③ 新函館北斗駅からの2次交通としての役割を担う鉄道やバス、タクシーなどについて、利用者の視点にたった利便性の向上に努めます。

2 鉄道交通の確保と利用促進

- ① 市民の交通手段として重要な道南いさりび鉄道は、沿線地域協議会において必要な方策などを協議し、市民が安心して利用できる公共交通として確保に努めます。
- ② 将来にわたる道南いさりび鉄道の維持・存続に向け、観光客など新たな利用客の拡大や、市民、沿線自治体、地域応援隊などと連携し、積極的な利用促進に努めます。

【関連主要施策】 P51 主要施策1 観光資源の充実及び周遊観光の推進 ①

3 バス交通の確保と利用促進

- ① 通学や通勤など市民生活に欠かすことのできない移動手段として、バス路線の確保に努めます。
- ② バス事業者と連携し、ICカードの利用やノンステップバスの導入など利便性向上に努めるとともに、利用促進に努めます。
- ③ 北海道新幹線の開業などの環境変化や新たな交通需要に対応し、利便性の高いバス路線のあり方について、南北市街地連絡バスの見直しと併せて検討します。